

# オウム真理教対策住民協議会ニュース

鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

## 地下鉄サリン事件から20年

— 被害者・被害者遺族の闘いから見る —

講師 高橋シズエ氏

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会 第31回学習会要旨

小雨がぱらつく中で行われた第31回抗議デモに続いての学習会では、地下鉄サリン事件被害者の会 代表世話人高橋シズエ氏による講演が行われ、事件より20年を経ての被害者とその家族の闘いの様子などが語られた。

### サリン事件被害者の実態

妹が被害を受け、未だに身体を動かす事も出来ず、言葉も発する事も出来ない状態の中で、兄として介護を続ける浅川さんは、国から給付金が出たが一時金であり、今後の生活にあてる事は出来ない。介護がなければ生活の出来ない妹が、安心して生活出来る国になるように、自分たちが一歩足を踏み出さなければならぬ。そして、被害者の存在が見えるようにこれからも活動を続ける。同じく被害者の伊藤さんはオウム真理教と闘う事で、事件の苦しみを乗り越えた。事件後すぐにPTSD(心的外傷後ストレス障害)が出たりで、今まで地下鉄にも乗れなかった。メディアを通じてオウム真理教事件のテロリスト行動は許せないと訴える事、事件を風化させない事を続けていきたい。

### アンケートから見える被害者の状況

20年も経ち、被害者や回りの人たちがどう思っているかとアンケートを行った。20



講師 高橋シズエ氏

除名されまし  
た。今でも麻  
原に帰依して  
いるのか、「チ  
ベット密教と  
同じと思っ  
ている」と謝  
罪と償いは—  
「自分の中で  
よつと深いとこ

00件の配布に対して325件の回答があった。主なものを抽出すると、生活に大きな変化があった。目の異常が続いて、仕事や生活に支障がある。目に見える症状より、心的被害が未だに続いている。職場での心ない対応に傷つく事が多い。人を信じられなくなった。サリンの後遺症が恐い。国は健康診断を継続してほしい、健康に自信がない。など、20年を経過してもサリンの被害が続いている。

### 高橋克也の裁判に被害者参加して

裁判に死刑囚が証人として出廷することが異例の事であり、傍聴席と法廷の間に衝立が置かれて、証人席の様子が見えないようにされていた。被害者参加として質問する事が出来たので、いくつかあげると、—主人(高橋シズエ氏の夫)はもう戻ってこない。この事は一生貴方についてくる事を忘れないでください—「ハイ」—現在は脱会しているのですか—「自分の意志に反して

るで考える事が必要な。言葉ですむものではないと思っるので証人たちが積極的に証言しているのに対して、高橋克也は意味不明やはっきり意思表示をしない事が多い。はっきり分かった事は、未だに麻原を信じている事だった。

地下鉄サリン事件から20年が経過して、オウム真理教事件犯罪被害者救済法の成立で、給付金が出る努力を続けてきたが、まだ犯罪被害者の権利擁護や補償が少なく、国はもっと力を尽くしてほしい。ひかりの輪のように、マスコミを利用して、観察処分逃れを考えている事を心配している。被害者の存在が常に見えるように、事件を風化さ

## 足立入谷のオウム真理教抗議デモに参加

11月22日(日)1時より、第5回足立入谷オウム真理教抗議デモが行われ、世田谷より4名の住民協議会実行委員が参加した。くもり空の中、入谷中央公園には足立区近藤区長、区・都議会議員はじめ200名近い町会・自治会の住民が参加して、オウム真理教信者が居住する施設までデモ行進を行い、施設前で抗議文を読み上げた。ひかりの輪と同様に、対応に出てくる信者の姿はななく、施設前でのシュプレヒコールを繰り返し、デモは終了した。100名近い信者が居住する足立入谷の施設は、オウム真理教(アレフ)の本部となり、住民に不安を与えるのに十分な条件が揃っている。施設の近隣では、オウム真理教反対



せないように、これからも活動を続けていきたい。世田谷の皆さんと共に行動して行きたいと講演を結んだ。

の赤いのぼりを立てている家が以前より多くなったように思う。抗議デモの後、会場を移してDVD「カルト、すぐそばにある危機」が上映された。産婦人科協議会会長の挨拶の中で「世田谷区鳥山の15年という活動の実績があったから、わたくしたちも5年間続ける事が出来る事が出ました」との言葉に、より一層の情報交換と協力体制の必要を感じた。



## 第31回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】平成27年11月14日(土)

【回収枚数】49枚

【参加回数】初めて(5)、2回目(4)、3回目(5)、4回目(1)、5回目(1)、8回目(3)、10回目(29)

### 【デモ・学習会への感想】

- ・被害者に対する救済、補償が充分でない現状が深刻であるのが分かった。
- ・貴重な機会でした。地下鉄サリン事件の20年目の節目に高橋さんのお話が聞けて良かった。
- ・被害者より加害者の方が安定した生活をしている。被害者への国の対応か？生活が成り立っていない様子。
- ・未曾有のテロ事件を起こした教団がのうのうとしているなんておかしいです。現在この事件を知らない若い人が多く、入信してしまう若者が多いと聞き危機感を感じている。なぜ「破防法」を適用しなかったのか？
- ・被害者参加制度で裁判に参加した内容、やりとり等も、もう少し詳しくお聞きしたかった。
- ・1995年は1.17に阪神淡路大震災、3.20の地下鉄サリン事件という戦後日本にとって記憶に残る年でした。3.11同様に「忘れまい」という意識が必要だと思う(風化させず、予防する)
- ・オウム真理教によって大事なご主人を奪われた高橋さんの講演は一言一言重みがあり、オウムによるテロ事件の深刻さが改めてよく解った。オウムを知らない若者が増えるなか、オウムの危険性をきちんと認識し、オウム解体の為に国民が運動していかなければいけない。
- ・抗議デモの時に2回続けてオウムの人達は出て来ない。抗議文をポストに入れましたが、今後もそうなるのかと思っています

す。高橋さんの話は、はっきりしなかった。映し出された映像も字が小さく読む事が出来なかった。

- ・被害者遺族代表としてがんばっておられる高橋さんの活動に敬意を表します。

### 【住民協議会について】

- ・愛する烏山の街を守りたいという当然の願いを持った住民有志がこの様なオウム反対の活動を長い間されていたことに敬意を示します。オウムが解体し、誰もが安心して暮らせる烏山の街が実現することを祈ります。
- ・思想・信条の違う様々な住民が一つの社会問題解決に向って、主体的にまとまって行動する。この事態が大きな民主的体験だと思うが15年間顔ぶれが変わらない。この体験をより多くの世代に。
- ・風化が進む中で今後の活動は官民協力が今まで以上に必要であると思う。資金源を断つ。信者を増やさないといった活動が重要。

## 第31回抗議デモでの抗議文

### 抗議文

坂本弁護士一家殺害事件から26年、松本サリン事件から21年、地下鉄サリン事件から20年が経過するが、忌まわしい事件の記憶は私たちから消し去ることは出来ない。

オウム真理教はこの外にも多くの尊い命を奪い、日本中を恐怖に陥れたことは記憶に新しい。サリン事件で負傷し、人知れず後遺症に苦しみながらも、生きていくという選択に迫られている人も数多い。

この現実にもオウム真理教は解散どころか、アレフと名称を変え、日本各地に施設を作り、信者の獲得に奔走してきた。烏山地域には2000年に信者の集団入居が始まり、その後信者数が増加するに伴い、烏山施設が全国の本部となり、130人以上の信者が居住するという、住民には過酷な試練が押し付けられた。アレフはその後「脱麻原」を標榜する上祐史浩がひかりの輪を結成した。上祐は地下鉄サリン事件後「オウム真理教がこんな事件を起こす訳がない」と日本中を敵に回したが、現在は一転まやかしの「ソフト路線」に変更「危険のない」ひかりの輪を演じている。

しかし、今年一月のアレフ・ひかりの輪に対しての5回目の観察処分決定は、上祐に奈落の苦しみを与えた。目標を見失った上祐は、事もあるうに私たちの活動に対し圧力を加えるようになった。私たちは、ひかりの輪の本質をこれからは暴きだし、解散・解体まで闘い続けることを宣言する。

平成27年11月14日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会  
会長 古馬一行

## 第10回烏山コミュニティーまつりでの募金活動

10月31日(土) あいにくの天気でしたが、烏山区民センター前広場で模擬店を開き、募金活動を行いました。心のこもった手作り小物を、地域の皆さまより沢山寄付していただき、感謝しております。住民協議会会員の皆さまからも、ハンカチ・タオル・キーホルダー・ぬいぐるみなどが持ち寄られました。手づくりの甘酒も販売し、いずれも完売となりました。

募金は地元の顔なじみの方々も含め、大勢の人よりねぎらいの言葉と共に募金が寄せられました。ありがとうございました。これからも募金活動は継続いたしますので、よろしくお願いたします。

## 住民協議会活動報告

11月14日(土) 第31回抗議デモ・学習会

11月16日(月) 実行委員会

11月22日(日) 第5回足立入谷オウム真理教抗議デモ参加

11月30日(月) 協議会ニュース151号初校正

12月3日(木) 事務局会議

12月7日(月) 協議会ニュース151号再校正

12月10日(木) 区主催「オウム真理教問題講演会」参加

12月15日(火) 協議会ニュース151号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。